

## おじいちゃんが孫に語る「古事記」のお話 その(一)

まだ地球も、この世も無い時、神様が表われて（造化三神）

この宇宙を生み出された、あーのひびきが始まりです。

そしてイザナキ、イザナミの神が、この地球を作ったのです  
二人はこの地球へ降りてきて、世界中の国を造り、日本の島を  
造ったのです。そう「古事記」はこのイザナギ・イザナミの  
お二人の話から始まります。日本の歴史の礎となる神話です。  
この神話は延々と続き、日本人の心に刻まれ、日本の素晴らし  
さを伝えてくれます。そしてついに「神武天皇」様が誕生な  
さり「稲」を植えて日本中が豊かで平和な国として暮らそうと  
努力され、日本の基を整え初代の天皇陛下となられた。

それが二千六百八十年も前の事だったと書いてあるのです。  
この物語を書き、表されたのは、第四十代の「天武天皇」で  
「ヒエダのアレ」という人に、日本の成り立ちを書くように言  
われて天武天皇の息子の「舎人親王」がこれをまとめたそう  
だ。「舎人親王」様は今も足立区にある舎人町にもその由来が  
あるという、日本で初めて、日本の成り立ちを書いて「古事  
記」というのだ。これを「天明天皇」（七十二年）の時に「大方  
万安」という人が正式に古事記としてまとめ、日本の国書とし  
たものなんだ。上巻は最初に書いたように「神話」で多くの神  
様が活躍する「天照大神」「あまてらすおおかみ」様の話から  
「須佐之男命」「すさのおのみこと」の話「大国主」「おおくに  
ぬしのみこと」の話し、にぎのみことの話等々の、お母さん  
が聞かせてくれた話がいっぱい！中巻は初代神武天皇が最初  
に日本を造る活躍で胸躍ります。下巻は仁徳天皇く推古天皇  
まで、民を思う心が書かれる、日本人なら誰でも知っている、  
この「古事記」を大切に読んで、誇れる日本人として、世界で  
活躍して欲しい。

## おじいちゃんが孫に語る「古事記」のお話 その(二)

「古事記」って何？それは古い 古い日本の神話、神様の話だから信じないっていう先生がいる。けれど日本が平和であって欲しいと願う心、天皇様がどうして日本中の人々から尊敬されているのかを、物語にしている。世界に一つの物語だ！神社に行くと手水洗い場があります。これは「禊祓」「みそぎはらい」をする場です、イザナギの神は、イザナギの死の世界から帰ってきて、禊祓をして、天照大神、月読生命、須佐之男命を生んだ「天照大神」様は太陽のお役目として、世を照らす大事な神様です。弟の須佐之男は、海を治める神様ですが、母イザナミに会いたくて仕事をしない、暴れ者、とうとう天照様が心を傷め、岩の中に隠れてしまったので、天地が真っ暗になったのです。大勢の神々が集り踊って笑って大賑わい、天照様は何だろうと、そっと覗いたら、岩を空けられ、太陽が降り注いだのです。須佐之男は天照を悲しませたと、高天原（たかあまはら）から追放され、出雲の国にやって来た、そこで大蛇に娘を食べられてしまう 家族を救い大蛇を退治し「櫛名田比売」「くしなだひめ」と結婚し幸福になった。この大蛇をやっつけるシーンは、色々な演芸で催をされる日本の芸能の一つになっていますね。この須佐之男のもとに、優しい心で、イナバの白うさぎを助けた「大国主命」「おおくにぬしのみこと」が兄達のいじめにあい、木の神様からお告げで、須佐之男に会いに行きます、そして娘の「須勢理姫」の協力もあり試練を乗り越え、二人は結婚、出雲の地を治め、日本中を治めます。

## 天孫降臨（てんそんこうりん）

日本を治めていた大国主のもとに、天照様の孫の「ににぎのみこと」がこの国を治めることが良いと「天降り」させることになり、大国主もそれに従い「国譲り」をされるのです。高千穂に降臨された「ににぎのみこと」にも、嬉しい話、悲しい話があります。「ににぎの命」と「木花佐久夜姫」の間に生まれた山幸彦と海幸彦の物語も知っていますでしょう。「山幸彦」と「玉依姫」の二人に生れた御子が日本初代の 神武天皇です。

「古事記」

和銅五年（七一二年）

日本最古の歴史書

平成二四年（二〇一二年）は古事記編纂千三百年

天武天皇の命により太安万侶が編纂。

「日本書紀」

養老四年（七二〇年）

日本最初の正史

成立の経緯、作者は不明。

## 【古事記 上巻 冒頭】

（読み）

天地の初発の時、高天原に成りませる神の名は、天之御中  
主神、次に高御産巢日神、次に神産巢日神。此の三柱の神  
は並独神と成りまして、身を隠したまひき。

次に国稚く、浮脂の如くして久羅下なすただよえる時に、  
葦牙のごと萌え騰る物に因りて成りませる神の名は、宇摩  
志阿斯詞備比古遲神。次に天之常立神。此の二柱の神も並  
独神成りまして、身を隠したまひき。上の件、五柱の神は  
別天神。

（訳）

昔々の大昔、はてしなく広がっていた暗がり、やがて天  
と地に分かれたその時に、高天原にあらわれし神の名は、天之御中主神、  
次に高御産巢日神、次に神産巢日神、この三柱の神は、みな独り神とし  
て、姿は見えませんが、無限の姿となつて顕れる神です。

天上から眺める下界は、まだ空か海かわからぬ中に、どろどろとした脂の  
固まりがくらのげのようにふわふわと漂い、しつかりと固まつたところが見  
当たりません。

しかし、明るく朗々としたおごそかな天之御中主神が発する天地創造の言  
霊が、力強く鳴り響いて目に見える世界を圧して聞こえてきました。する  
と、まだ固まりきらない脂か泥のようなものの中から、細い葦の若芽のよ  
うなものが萌え出てきました。別のところからは、かびの胞子のようなも  
のが無数に点々と姿を現しているではありませんか、実に勢いのよい見事  
なまでの生命の顕現でありました。これは天之御中主神がお姿を変えた宇  
摩志阿斯詞備比古遲神のお働きでありました。次に、天之常立神。この二  
柱の神もまた独り神で、お姿を隠されたままです。肉眼で見ることでは  
できません。以上の五柱の神々は別天神といえます。

自由民主党東京都足立区議会議員

せぬま剛

## おじいちゃんから孫へ

令和という元号が万葉集からつけられたと知って万葉集を知りたいと思った日本人は多いと思う、奈良時代の七五九年から七八〇年頃にか、長歌や短歌などを皇族や貴族だけでなく、一般庶民の歌まで、四千五百首以上収録された、我が国最古の和歌集です。

令和の「元」となった歌は七三〇年二月五日、九州太宰府の長官・大伴旅人の館に集った、防人達よきもりの「梅花の宴」での歌始めの前文です。当時、唐（中国からの侵略に備え太宰府政庁には、国防の為の兵士が全国から集まっていました。）そんな血氣盛んな皆さんが、つかの間の憩の歌会の前文なのです。

初春は 令き月にして 氣を淑して

風和み 梅は鐘前の粉を挽く

令月・・・神々が祝でくださる月で

氣淑・・・空気も良い感じで

風和・・・風もなごやかです

最前線で毎日氣を荒ぶらせ訓練に明け暮れる兵士達ですが、皆が集り、まずは、このように、和やかな日々が今過あごせることに感謝する前文となっているのです。日本はこんないい国だ、この国を守っていこうという氣概が和やかな中に伝わってくるのです、千三百年前の想いは今の自衛隊にも伝わり国を守って下さいます。

せぬま 剛



## レツツゴ―通信　せぬま　剛　令和二年

## おじいちゃんから孫へ

万葉集には日本の歴史の中で国を守り国を支えた人々や、平和な暮らしを喜ぶ人、愛する人を心配する人等の国を想う人、人を諭す人、時を憂える人の歌があります

## 万葉集　第一巻　第一番の歌

最初に書かれているのは第二十一代雄略天皇陛下の歌

籠よみ　籠もち　ふくしもよみ　ふくしもち

このをかに　菜をつます兒

新鮮な食べ物の入った籠を（竹籠）

乳を飲ませる　母に与えよう

（ふくしもよ）　永く広く与え続けることを

（ふくしもち）　国の父としての神聖な志にしよう

この岳で菜や木の実を採取している男子たちよ

雄略天皇は、国民を想う気持を、国の父として、神聖な志にしよう  
と誓われ、可愛い乳飲み児に乳を与える母に永く広くいつまでも続くよう  
祈り

野山で菜や木の実を採り、家でくつろぐ男子達をいたわり、わが国で  
生活するひとりひとりの男子達、女性達の名を挙げ祈るのです。

天皇は当時朝鮮の紛争に巻き込まれ、新羅の策略により、高句麗と戦  
いました。策略が判明すると、百濟を助け、新羅を破ったのでした。

日本を守りとおした雄略天皇

今、日本人に日本を守る気概はあるか！

せぬま　剛

おじいちゃんから孫へ 最初に

## 縄文時代についてのこと

日本の国は今から一万年〜二万年も前には大陸（中国や朝鮮）と陸続きの時があったんだ。多くの動物や人間が渡ってきて、私たちの祖先となったのです。この時代の人々は寿命が短くて十五才以上生きられる人は少なかった。三十才がやつとの時代、私達はそんなお母さん達が生命がけで産んで育ててくれて、今に継っているのです。すごいことですね。その頃は立穴を掘って暮らし、狩猟、漁労が主な主食でした。日本はまだ文明的には世界で遅れた地だったが、祖先の人々は平和に暮らしていた。

こんな時代が約二千三百年前まで続いてきたがこの頃の遺跡から発見された土器には多くの縄目の模様を付けられていたので、この時代を縄文時代と言うのだ。一生懸命に縄目をつけ、家族の為に土器を焼いている人々を想うと平和で微笑ましいですね、この土器は全国の遺跡から発見されています。

まだ農耕や牧畜は行われておらず、木の実やケモノを追って家族で協力してきた生活も作物を造る、保存する、その土地を確保するという弥生時代にと変ってゆくのです。

## おじいちゃんから孫へ 次に

## 弥生時代のはじまり

縄文時代の話を前回しましたね。永い間先祖の人達は、動物や木の実を食料にして生活しました。三千年ぐらい前から銅や鉄が造られ、畑や田んぼの器具が出来ました。そして農耕稲作が始まったのです。

これが「古事記」に書かれている、天照大神様のお話です。お米を造る時代となり、米は貯蔵し、不作の時でも食べられるようになり、国として成り立つようになったのです。お米を入れる倉が神社のもととなったと言われています。この頃の日本は邪馬台国という国で卑弥呼という女帝が統一していたといわれ、日本人は中国から倭<sup>わ</sup>と呼ばれていたそうだ。神武天皇による大和朝廷の誕生までは神話の続きとして伝えられています。日本人として素直に神話を信じてゆきましょう。

世界中も国の始まりは神話です。ギリシャも多くの国々もそうですが、その神話から、天皇が生まれその天皇が二十一世紀の今も続いている国は日本の国しかありません。その天皇陛下は代々男子の血筋で継ぐと定められ、これを「万世一系」といいます。令和の天皇陛下は一二六代目にあたられます。稲作文化は日本の国を誕生させた弥生時代であり弥生時代から今の日本が続いているのです。

## おじいちゃんから孫へ その二

## 古墳時代のおどろき

弥生時代に日本の国が始まりました（二千六百八十年前）四世紀〜六世紀の頃には、日本の天皇のもと国の形が整い、古事記には大和時代とも言われますが、この頃、天皇陛下や、権力者の墓が巨大なものとなり古墳として全国に作られ、今も残されています。

最大のものは、十六代仁徳天皇、大仙陵古墳であり、民を思い自らは清貧に暮らされた天皇を偲び、民が自ら協力して840m×654mの日本最大級の陵墓が作られた。大阪堺市の市役所の展望所に行くと真下に見えるので行って見て下さい。

全国には宮内庁が899ヶ所の陵墓を管理しています。応神天皇陵とされる古墳もまだ内容が明かされず、分からない古墳も多いのですが、世界遺産になりました。時が進み二十六代継体天皇が即位してからは命により古墳の形も、変ったり小さくなっていったのです。

## 飛鳥時代 日本は激動の世界へ

この頃日本に仏教が伝ってきました。三十二代崇峻天皇（継体天皇の孫）の時代には豪族が力をつけ蘇我氏と物部氏が仏教を日本に受け入れるのかの争いが起き、蘇我氏が勝ち仏教が日本に入った。日本にはもともと神道というものがあったが特に他を排するようなことは無く、木や山や岩など神聖なものを神として祀っていたので神仏の争いは無かったです。この精神は今も日本人の和の心となっています。

## おじいちゃんから孫へ その四

### いよいよ飛鳥時代 五九二年から

弥生時代、古墳時代と日本は天皇のもとに、国としての型を整えた。そして三十三代推古天皇のときに、皇子として、聖徳太子が就任し、仏教を入れ、全国に広め、国を安定させた。中国に遣随使ずいしを送った。挨拶に「日出る処の天子、書を日没する処の天子に致すつつがなきや」と書を送ったとされ、中国と対等だとの意を示された。政治では、日本初の成文法と言われる法律「十七条憲法」を作られた。第一条には「和をもつて貴しと為し、さかうること無きを宗とせよ」と書いたのです。それは「仲良くすることが何よりも大切なことです。争いごとは良くない」と言っているのです、何事も話し合い、和で決めようという民主々義の原点を示したのです。奈良に今も残る法隆寺に聖徳太子の遺業が偲べれます。是非行かれると良いですね。足立区入谷にも「太子堂」がありお祀りしています。高松塚古墳には飛鳥の華やかさを残す壁画が保存されています。

聖徳太子が没くなられ三十八代天智天皇は「唐」の侵略がいつあるか分からない状況で九州大宰府に防衛の施設を作り、都も海に近い飛鳥から大津に移しました。四十代天武天皇は更に国を統一する為、流通網を作り物流の制度で国を安定させ、日本の始まりを記録する為に「古事記」を作ることを命じました。(七一二完成)この頃「万葉集」日本の和歌集も作られました。飛鳥時代の発展がもととなり、国家が繁栄し平安時代という文化の華開く時代がやってくるのです。



## おじいちゃんから孫へ

### 平安時代 世界に誇る文化花開く

飛鳥時代四十五代聖武天皇は、当時今回のコロナのような疫病がはやり、国民が苦しんだので、大仏を造り、民の安全を祈る大事業を行った。

五十代桓武天皇は奈良の平城京から京都長岡京に都を移したが、十年で平安京に移した（七九四年）いよいよ平安時代のはじまりです。

日本は確実に、政治も文化も成熟してゆきました。八九四年には、遣唐使を菅原道真の進言により廃止しました。唐からの圧力に屈しない。日本が自信を持った国となったのです。日本独特の仮名文字も発明され、今私達が使う「かな」は文章を美しく表し、清少納言の「枕草子」や紫式部「源氏物語」等々、千年後の今も読まれる多くの名作が生まれました。こうして平安時代は平安文化とよばれる日本独自の文化が華やかに、三百年も続いたのですが、地方でいろいろな力を持った武士達が役人より力をつけてゆきました。関東の茨城では、平将門が乱を起こし別な国を建てようとしたんだ。これらの事件が起きても、平安貴族達は、国を治めるより自分の出世を争っていたので、武士はますます政治を左右するようになったんだ。この頃天皇家でも争い合い、崇徳天皇と後白河天皇との争い、鳥羽天皇の去就、近衛天皇を二才で即位させて院政をめざす者達の争い等々。この頃を「保元の乱」というのだ。百人一首にも崇徳天皇が「瀬をはやみ せかるる滝川の われても末に あはむとぞおもう」と二つに分れた急流だがいつか一つになるように、早くそうなつてほしいと、願い歌っているが、これらの争いを利用して源氏と平氏の武力の力が更に強くなり「源・平」の争い 武士同士の戦いにより、強い武士の力が朝廷を支配し、ついに平安貴族社会が終わるのだ。

## おじいちゃんから孫へ

## 鎌倉時代・日本を守った。 蒙古の侵略

平和な平安時代も、貴族の争いや、天皇家を利用して権利を得ようとする人達の争いにより、武力の力を借りた為に、平家が源氏を破り政治を左右する(一一五九年)ことに。平家は権力を握ったが貴族の真似をしていただけなので、やがて源頼朝と弟、義経により、ついに壇ノ浦の戦いで(一一八五年)平家は滅びた。しかし義経は頼朝に岩手県平泉で討たれ、頼朝の子、頼家も実朝も殺され、お母さんの政子(北条政子)のがんばりで北条家が支配する(一一九二年) 鎌倉時代だ！一二六八年頃、中国を支配した元帝(蒙古)フビライハーンは日本に服従を求め、国書を日本に送ってきた。

この時「北条時宗」は蒙古に屈せず国を守ることを決意したのだ。六年後一二七四年十月五日蒙古は軍船七百〇九百隻四万人で日本に來襲し、まず対馬を襲い壱岐の二つの島で多くの島民を虐殺し、九州博多に上陸した。日本は十月二十日に船に引き上げ、帰途についたが、玄界灘が大荒れになり、多くの船が沈んだ。この戦いを「文永の役」とよばれます。鎌倉幕府は再び蒙古の侵略に備えて、海岸に長大な防塁を築き、武士も厳しい訓練をして備えた！弘安四年(一二八一年)六月十六日蒙古は再び、四千四百の軍船、十五万人もの兵で日本を襲ってきた。すさまじい戦いを日本の武士達は勇敢に戦った。防塁で追い討ち、小船で次々と蒙古軍に斬り込み、蒙古軍破った。彼らは軍船を鎖でしばり砦のようにして船を強くしたが、八月二十二日、九州に台風が来た。蒙古の軍船は縛ってあったので、動きがとれず多くが沈んでしまった。残った蒙古軍に対して日本軍は総攻撃をかけ、打ち破り、日本は独立を守ったのだった。これを「弘安の役」というのだ。もし平安時代に蒙古軍が来ていたら、こんなに強い武士はまだいなかったのだ。日本は武士も朝廷も一致団結して、外国からの侵略に打ち勝ったのです。

## おじいちゃんから孫へ

## 戦国時代 誰が將軍となつて国を治めるのか

鎌倉幕府は蒙古との激戦で財政が苦しくなり、北条氏の力が弱くなり、国が乱れてきたので、一三二四年「後醍醐天皇は再び朝廷政治が出来るようにと立ち上がり」「楠木正成」らの協力や新田義貞の活躍で、天皇政権を復活「建武中興」したが「足利尊氏」の台頭により天皇の座を失うが一三三八年後醍醐天皇は密かに吉野を脱出して、自分が正式な天皇だと言い出したのです。それで二つの朝廷が出現してしまい、これを南北朝時代という。足利三代將軍「義満」はこの南北朝を一つに統一したんだ（二三九二年）この時の天皇は第百代「後小松天皇」といい、室町時代とよばれる。足利八代將軍「義政」は室町文化といわれる「わび」「さび」の文化を発展させ、銀閣寺を建てたが、政治を軽んじ、有力者である山名氏と細川氏が権力争いから戦いとなる「応仁の乱」一四六七年この戦いは十一年も続き京都の大半が焼けて今も京都にその陰を残している。応仁の乱で勝った細川氏に全国を統一する力は無く、十五代將軍「足利義昭」にも力は無く「織田信長」に利用されるだけで、ついに京都から追放された。そして將軍不在の日本となり、全国の実力大名達の争いとなった！戦国時代に突入したのだ。堺を押え鉄砲を重用した信長の実力は、武田や朝倉、各地の僧兵をも打ち破つて天下統一なるかと思つたが明智光秀に討たれた。信長の突然の死により、家臣の一人である羽柴秀吉は毛利と戦っていたが引き返し、天王山で明智を破つた。大阪にある天王山は数メートルの低い山だが、天下分目の天王山と今でも言うのだ。秀吉は次々とライバルを倒して、一五八六年正親町天皇から豊臣の姓を賜つて、政治の最高位についたことにより百年ぶりに国が統一され戦国時代が終わつたのです。

秀吉は全国を測量（検地）して国の力を把握し、国を安定させる為に、農民から武器、刀を没収（刀狩）した。信長が認めていたキリスト教が、日本を侵略する為の道具であり、政略だと知り、これを弾圧して国を守つた。全盛を誇る秀吉は「明」と戦うために朝鮮に出兵するが死去し、息子の秀頼が未だ五才であつたので、徳川家康が政治の中心となつた。石田三成達は秀頼を立てて家康を亡ぼそうとしたが、関ヶ原で破れ豊臣家は滅亡した。ついに徳川の時代となる。これを江戸時代というのだ。

## おじいちゃんから孫へ

## 江戸時代 江戸しぐさ 今に伝わる

徳川家康は（一六〇三年）江戸幕府を開くと「武家諸法度」という法を制定し、全国の藩を支配した。三代将軍家光の時代までに、盤石の体制を築き「参勤交代」という一年おきに江戸へ来て住むという制度をつくり、大名達の財力を使わせ、力をつけないようにした。次の将軍を指名するのに御三家というシステムで必ず世継ぎに備えた。（尾張徳川家・水戸徳川家・紀伊徳川家）家光は鎖国を行い（一六三五年）日本人の海外渡航を禁じたのです。徳川時代は鎖国時代という。オランダとの交易は長崎の出島に許され、長崎は異国文化が入った。江戸幕府は身分制度を設け、士農工商としたが武士の士は特別であったが、ほとんど差はなく、町民でも農民でも能力や努力する人は武士になれたのです。五代将軍徳川綱吉は「生類あわれみの令」を出し、犬や猫など動物を殺した者を死刑にした。行き過ぎた「悪法」の見本のような將軍！「一六九五年」頃を元禄時代といい元禄文化と呼ばれる華やかな時代でした。人形浄瑠璃や西鶴の小説や浮世絵も数多く出版され、囲碁も日本中の人が楽しんでいた。千住大橋から日本中を旅した松尾芭蕉が俳句集を完成させたのもこのころだ。六代将軍家宜に仕えた関孝和という数学者は、日本式数学の基礎を確立させ、世界的な計算法を発明しているのだ！江戸時代には学校を「寺子屋」といって子供達を教育していた。日本中に一万五千ヶ所以上あり、「読み」「書き」「そろばん」を教えた世界で類を見ないほど、字を読み書ける日本人だったのです。武士の子供達は藩校という寺子屋よりレベルの高い教育もされていたのです。明治になって学校を造るとき、そのまま、その場所も使われる所もあった。この頃江戸城松の廊下で浅野内匠頭が吉良上野介に斬りかかり内匠頭は切腹させられ、赤穂藩の浪人達が吉良邸に討ち入りし主君の仇を討つ事件が起きた。これを「忠臣蔵」といいます。時代は進み、幕末に近い、一八〇〇年「伊能忠敬」が日本中を歩き正確な日本地図が完成したのです。佐原市に行くとき記念館があります。一八五三年六月三日アメリカの軍艦四隻が浦賀に現れました。一八五四年一月ペリー艦長七隻の軍艦と来航し、開国を迫り、幕府は三月「日米和親条約」を結ばされ、ついに鎖国が破られ、徳川幕府の権威は失対し、明治維新の氣運が高まり、徳川幕府は終わるのだ！



## おじいちゃんから孫へ

昭和・平成時代

おじいちゃんが生まれたのは昭和十七年（一九四二）だ。その前の年、十六年十二月から、日本はアメリカと戦争していたんだ。おじいちゃんのお父さんも兵隊さんで軍艦に乗って戦っていた。何で日本はアメリカと戦争したんだろう、それは日本が明治維新で近代国家となり、アメリカやヨーロッパの植民地とならず、二度の戦争にも勝ち、躍進する姿が、アメリカ等に恐ろしい存在に見えてしまった。そんな日本は植民地となっている、アジアの国を助け独立させよう等と、大それた考えを持っていた。全ゆる難題をつきつけ、日本が戦争を起こすよう仕向けた。アメリカの計画通り天皇陛下が反対されても日本軍は戦争に突入してしまつた。資源の無い日本はすぐに物資が無くなり多くの国民が犠牲となり、敗れた。昭和二十年八月十五日（一九四五）アメリカの飛行機で爆弾がものすごく落とされた。この千住もほとんど焼けたんだ。その家の中や庭に防空壕という穴を掘って避難したが、今でも千住神社に残っている。日本が敗けるのが分かってから、ソ連や中国、朝鮮が日本人をいじめ、殺され苦しめられた。その上日本は、多額の賠償金を払わされた。そのソ連や中国や北朝鮮が独裁共産主義を広めてきた。ソ連や中国にダメされて日本と戦争したことに気が付いたアメリカは共産主義勢力を止めなければ、自由主義が危ない事実を知り、日本に協力を求めてきたのだ（一九五〇）しかしアメリカにより戦争をしない国へと、全ゆる法律を造った日本は吉田茂総理大臣が再軍備をしなかった。

## 戦後の日本

アメリカは、日本人がすぐガンバルので、二度とアメリカと戦争出来ないようにする為、憲法に日本の良い所は書かない憲法を造った。教育も日本人がダメで悪いことをしたと教えるようにしたのだ。おじいちゃんも皆、日本がダメで悪国だと教ってしまい、日本中の人が政治家が外国に謝ってばかりいたんだ。

ところがアメリカの真実の歴史が公表され、世界の真実の歴史が知られ、日本が悪い国でなかった事が、今証明されているんだよ！日本の平和・自分の国は自分で守る、素晴らしい日本にしよう。自信を持って。



## おじいちゃんから孫へ 躍進の昭和停滞の平成

前の頁に書いたように、明治から頑張って、アジアで唯一外国に占領されず独立を守った日本を恐れた共産主義者がアメリカを利用し日本と戦わせる「ワナ」に日本は、はまり日本中がひどい目にあった。そのワナの真実がアメリカとソ連が交わした通信記録で判明した。昭和二十七年にはアメリカマッカーサー將軍が議会で証言し「日本は自衛の為に戦った」と言った。思い上った軍人の考えもあるが、アメリカの戦略に気が付かないお粗末さも思い上がりだからだった。又当時の新聞等も戦え戦えと国民を煽った。さて今はその新聞が日本はダメな国だから謝れ、外国が攻めて来たら何せずには謝って外国の言うとおりにしていればいいという。お粗末、謝っていれば平和と言うのか。絶対に違う。謝っている国、弱い国は皆略奪され、侵略され、国家は滅亡しているのだよ。

## 自信を持とう日本人

日本は国を守る為アメリカと「安全保障条約」を結び、昭和三十五年（一九六〇）これを岸首相が改正した。共産党等は、これで日本はアメリカの戦争に巻き込まれると大反対した（今も憲法を改正すると戦争をする国になると反対しているよ）。これで日本は安心して経済政策に力を注ぐことが出来、神武景気などもあり、ついに昭和三十九年（一九六四年）東京オリンピックを開催し、新幹線を開通させたのだ。翌年昭和四十年日本は韓国と「日韓基本条約」を結んで賠償金を払った。その額は韓国の国家予算の二、三倍にものぼる巨額なもので、謝ることが良いとの日本の意識だった。これを「自虐思想」といい、日本人には今も自虐の人が数多くいるのだ。

## 自虐反日の日本人

日本人が謝り、誠意で対処しても、外国は容赦なく次々と難題をもちかけてくるのだが、これは自虐の日本人が勝手に日本人は悪い人だと、小説に書いたり、テレビで言ったりしている。朝日新聞はウソの小説で作者が朝鮮に行った事もないのに、それを確かめもせず日本軍が朝鮮の婦人達を強制的に連行した等の話を本当だと報道した。それを韓国の反日の人々が利用して日本に更に謝れ、更に賠償しろと慰安婦像を作って世界に建てている。昭和四十七年（一九七二）には、占領されていた沖縄が日本に返還されました。しかし沖縄のアメリカ軍基地はそのままと決められていたので、今になって基地が町の真中に残されて危険なので基地を移動させようと、辺野古という所へ工事しようとしたが、自虐に人達は、ただ反対で、今も反対している。これには日本中から自虐反日の人達が参加しているのだ。何でも反対の人達は、とにかく日本が悪い国だと信じ込み、日本を世界から信用を落とすことだけが目的の人達なのだ。彼らにダマサレではないんだ。昭和の繁栄も昭和四十八年（一九七三）石油の産油国が突然、原油価格を四倍近く値上げし、日本の工場は大打撃となった、これをオイルショックといい、戦後の繁栄日本もついにここで終わった。

## 平成時代 昭和六十四年一月七日より平成元年

平成に入る少し前に、日本はバブル景気という繁栄をしていたが、平成二年に「総量規制」をしてバブルは崩壊した。そして日本はそれ以後も経済は低迷していて浮上しない。中国は発展途上国だと言って、日本やアメリカから多額の援助を求め、日本等も中国に支援を続け世界二位まで発展してきた。その力で軍隊を強力にして、アジアを続々と侵略日本の尖閣列島も中国領だと言いついて毎日軍船が日本領に入ってくる。北朝鮮も日本人を多ぜい連れ出し（拉致）今も帰そうとしない。平成二十三年二月十一日東北地方に大地震がおき、福島原子力発電所は津波により電源室が水没し電気が止まり冷やせなくなり、壊れてしまい、放射能が漏れてしまう事故があった。がんばれ日本！いいよ二〇二〇年はオリンピック、これも新型ウィルス コロナの影響で二〇二一年となった。

## おじいちゃんから孫へ

「きょういくちよぐこ」

「教育勅語」

おじいちゃんのお父さんや、祖先の方々が日本の国で生まれ、暮らしてゆくのに、大切な言葉として教わったのが、「教育勅語」「きょういくちよぐこ」という約束です。

「あなたの両親に「お父さんお母さんありがとう」と感謝しましょう。兄弟のいる人は一緒にしっかりと励まし合いましょう。

結婚した夫婦は二人で協力し、いつまでも助け合いましょう。

友達とは、お互い分かっているよねと信じ合う友人になりましょう。

もし間違ったことを言ったり、行ったら、すぐ「ゴメンなさい、よく考えてみます」と反省し、謙虚にやり直しましょう。

自分一人では出来ないのですから、思いやりの心をもって「みんなに優しくします」博愛の輪をひろげましょう。

誰でも自分の能力と人格を高めるために、勉強し、鍛錬たんれんするのですから、自ら進んで「勉強します」という姿勢、意気込みで知識を磨きましよう。

一人前の実力を身につけたら、それを活かせる職業に就き「喜んでお手伝いします」という気持ちで、家族のため、世のため、人のため「公ふいやり」の働きをしましょう。

あたり前の国家の秩序を保つために、必要な憲法や法律を尊重して約束は必ず守る、義務は果たすと心に誓い、ルールに従いましょう。

もし国家の平和と国民の安全が危機に陥るような非常事態に直面した時は、愛する祖国や同胞、家族皆を守るために、それぞれの立場で、それぞれ出来ることを「勇気を出してがんばります」と力を尽くしましょう。